

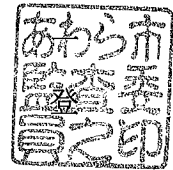
あ 監 委 第 74-3 号

令 和 7 年 8 月 4 日

あわら市長 森 之 嗣 様

あわら市監査委員 杉 本

あわら市監査委員 北 島



令和 6 年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算の審査意見の提出について

地方公営企業法第30条第 2 項の規定により、審査に付された令和 6 年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算について審査した結果、次のとおり意見を提出する。

令和 6 年度

芦原温泉上水道財産区水道事業会計
決算審査意見書

あわらし市監査委員

目 次

芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算審査意見

第1 審査の対象	-----	1
第2 審査の期日	-----	1
第3 審査の方法	-----	1
第4 審査の結果	-----	1
・ 芦原温泉上水道財産区水道事業会計	-----	2

凡 例

1. 文及び図表中の金額・比率は、原則として表示単位未満を四捨五入したものであり、したがって、合計と内訳の計、差引等が一致しない場合がある。
2. ポイントとは、百分率（％）間の単純差引数値である。
3. 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「－」…… 該当数値のないもの、意味のないもの
 - 「△」…… 比較により減少したもの
 - 「皆増」…… 前年度に数値がなく全額増加したもの
 - 「皆減」…… 当年度に数値がなく全額減少したもの

令和 6 年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計歳入歳出決算審査意見

第 1 審査の対象

令和 6 年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算

第 2 審査の期日

令和 7 年 7 月 22 日

第 3 審査の方法

審査に当たっては、決算報告書及びその付属書類が、関係法令に準拠して作成され企業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、予算執行及び会計処理が適正であるかなどに主眼を置き、関係書類の照合確認を行うとともに、関係部局から決算についての説明を聴取するなどの方法により実施した。

第 4 審査の結果

審査に付された各会計の決算報告書及びその付属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成され、その計数は関係書類と符合し経営成績及び財政状態を適正に表示しており、また、予算執行及び会計処理は総じて適正であると認められた。

1 業務実績について

普及状況は前年度に比べ、給水戸数が4戸増加し2,211戸となったものの、給水区域内人口は41人減少し2,475人となった。

年間配水量は1万3,056 m^3 （1.2％）減少し108万8,480 m^3 となり、年間有収水量も、1万5,652 m^3 （1.5％）減少し105万8,258 m^3 となった。有収率については前年度に比べ0.3％減少し97.2％となった。

なお、主な業務実績は次表のとおりである。

主 な 業 務 実 績					
区 分		令和5年度	令和6年度	増減値	増減率
普及状況	総人口 (A)	26,441 人	26,148 人	△ 293 人	△ 1.1 %
	給水戸数	2,207 戸	2,211 戸	4 戸	0.1 %
	給水区域内人口 (B)	2,516 人	2,475 人	△ 41 人	△ 1.6 %
	普及率	100.0 %	100.0 %	0 %	—
年間配水量 (C)		1,101,536 m^3	1,088,480 m^3	△ 13,056 m^3	△ 1.2 %
年間有収水量 (D)		1,073,910 m^3	1,058,258 m^3	△ 15,652 m^3	△ 1.5 %
一日配水能力 (E)		14,260 m^3	14,260 m^3	0 m^3	—
一日最大配水量 (F)		4,195 m^3	3,444 m^3	△ 751 m^3	△ 17.9 %
一日平均配水量 (G)		3,010 m^3	2,982 m^3	△ 28 m^3	△ 0.9 %
導送配水管延長 (H)		32,164 m	32,164 m	0 m	—
有収率 (D/C)		97.5 %	97.2 %	△ 0.3 %	—
施設利用率 (G/E)		21.1 %	20.9 %	△ 0.2 %	—
負荷率 (G/F)		71.8 %	86.6 %	14.8 %	—
最大稼働率 (F/E)		29.4 %	24.2 %	△ 5.3 %	—
配水管使用効率 (C/H)		34.2 %	33.8 %	△ 0.4 %	—

2 予算執行について

(1) 収益的収入

当年度の収益的収入は、予算額1億9,948万5千円に対し決算額は2億179万7千円で、予算額を231万2千円（1.2％）上回っている。

収益的収入予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	増減率
1 水道事業収益	199,485	201,797	2,312	1.2
1 営業収益	193,019	195,233	2,214	1.1
2 営業外収益	6,466	6,565	99	1.5

(注) 決算額には、仮受消費税及び地方消費税 1,751万 8 千円を含む。

(2) 収益的支出

当年度の収益的支出は、予算額 1 億 7,948 万 1 千円に対し決算額は 1 億 7,892 万 5 千円で、執行率 99.7%となった。

収益的支出予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	不用額	執行率
1 水道事業費用	179,481	178,925	556	99.7
1 営業費用	173,492	172,941	551	99.7
2 営業外費用	5,508	5,505	3	99.9
3 特別損失	481	479	2	99.5
4 予備費	0	0	0	-

(注) 決算額には、仮払消費税及び地方消費税862万 1 千円を含む。

(3) 資本的収入

当年度の資本的収入は、予算額 209 万 6 千円 に対し決算額は 206 万 8 千円で、2 万 7 千円 (1.3%) の不足となっている。

資本的収入予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	増減率
1 資本的収入	2,096	2,068	△ 27	△ 1.3
1 工事負担金	165	138	△ 27	△ 16.4
2 他会計負担金	1,931	1,931	0	0.0

(注) 決算額には、仮受消費税及び地方消費税 1 万 3 千円を含む。

(4) 資本的支出

当年度の資本的支出は、予算額4,405万円に対し決算額は4,363万1千円、執行率99.0%となっており、41万9千円の不用額を生じている。

資本的支出予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	繰越額	不用額	執行率
1 資本的支出	44,050	43,631	0	419	99.0
1 建設改良費	44,050	43,631	0	419	99.0
(1) 取水設備改良費	825	825	0	0	100.0
(2) 送水設備改良費	0	0	0	0	-
(3) 配水設備改良費	14,267	14,260	0	7	99.9
(4) 営業設備費	13,568	13,567	0	1	99.9
(5) 事務費	15,390	14,979	0	411	97.3

(注) 決算額には、仮払消費税258万8千円を含む。

なお、資本的収支において、資本的収入額が資本的支出額に不足する額4,156万3千円は、当年度分損益勘定留保資金3,673万3千円と当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額258万8千円、建設改良積立金224万2千円より補てんしている。

3 経営成績について

(1) 経営成績の概況

当年度の損益計算書を前年度と比較すると次表のとおりである。

損益計算書前年度比較表

(単位：千円、%)

区 分	令和5年度	令和6年度	増減額	増減率
営業収益	178,041	177,718	△ 323	△ 0.2
給水収益	170,823	168,479	△ 2,344	△ 1.4
受託工事収益	169	60	△ 109	△ 64.4
その他営業収益	7,050	9,179	2,129	30.2
営業費用	160,990	164,364	3,374	2.1
原水及び浄水費	74,724	76,557	1,833	2.5
配水及び給水費	6,144	6,459	315	5.1
受託工事費	68	23	△ 45	△ 66.4
総 係 費	30,927	29,983	△ 944	△ 3.1
減価償却費	42,502	43,044	542	1.3
資産減耗費	337	139	△ 198	△ 58.8
その他営業費用	6,289	8,159	1,870	29.7
営業損益	17,051	13,354	△ 3,697	△ 21.7
営業外収益	6,658	6,562	△ 96	△ 1.4
受取利息及び配当金	13	56	43	334.2
長期前受金戻入	6,645	6,450	△ 195	△ 2.9
雑 収 益	0	56	56	皆増
営業外費用	0	0	0	-
雑 支 出	0	0	0	-
経常損益	23,709	19,916	△ 3,793	△ 16.0
特別損失	33	435	402	1,209.2
過年度損益修正損	33	435	402	1,209.2
その他特別損失	0	0	0	-
当年度純損益	23,676	19,481	△ 4,195	△ 17.7
前年度繰越利益剰余金	66,692	90,368	23,676	35.5
当年度未処分利益剰余金	90,368	109,849	19,481	21.6

営業収益は、前年度に比べ32万3千円(0.2%)減少し、1億7,771万8千円となった。これは主に、その他営業収益が212万9千円(30.2%)増加したものの、給水収益が234万4千円(1.4%)減少したことによるものである。

営業費用は、前年度に比べ337万4千円(2.1%)増加し、1億6,436万4千円となった。

また、営業収益から営業費用を差し引いた営業損益は 1,335 万 4 千円の営業利益となり、前年度に比べ 369 万 7 千円（21.7%）の減少となった。

営業外収益は、前年度に比べ 9 万 6 千円（1.4%）減少し、656 万 2 千円となった。

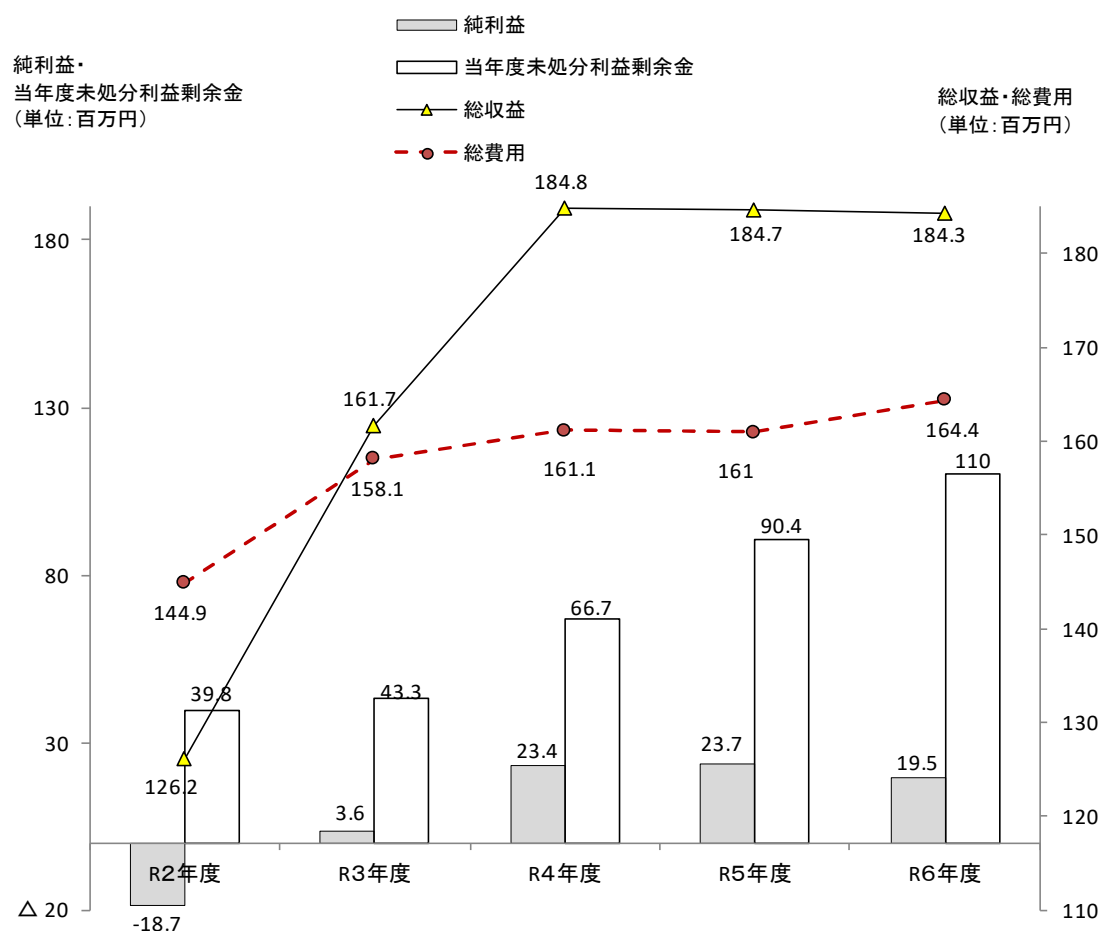
営業損益に営業外収益を加算した経常損益は 1,991 万 6 千円と黒字になった。

特別損失は、前年度に比べ 40 万 2 千円（1,209.2%）増加し、43 万 5 千円となった。

経常損益から特別損失を差し引いた当年度純損益は 1,948 万 1 千円と黒字になった。

なお、当年度純利益に前年度繰越利益剰余金 9,036 万 8 千円を加えた結果、当年度未処分利益剰余金は 1 億 984 万 9 千円となった。

過去 5 年間の収益費用の推移は、次のとおりである。



(2) 性質別費用

特別損失以外の費用を性質別に前年度と比較すると次表のとおりである。

費用性質別前年度比較表

(単位：千円、%)

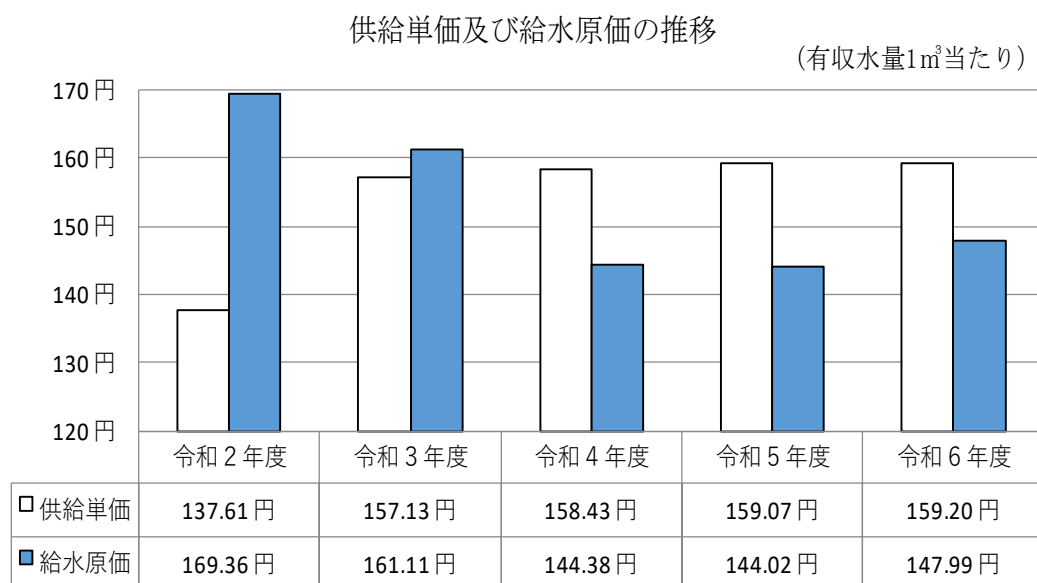
No.	区 分	令和5年度	令和6年度	増減額	増減率
1	人 件 費	23,854	22,080	△ 1,774	△ 7.4
2	備消耗品費	748	1,053	305	40.8
3	委 託 料	5,182	4,964	△ 218	△ 4.2
4	賃 借 料	1,753	1,746	△ 7	△ 0.4
5	修 繕 費	5,381	6,027	646	12.0
6	動 力 費	7,297	8,024	728	10.0
7	補 償 費	1,966	2,061	94	4.8
8	報 償 費	460	460	0	—
9	ペットボトル水売却原価	6,289	8,159	1,870	29.7
10	受 水 費	60,261	60,081	△ 180	△ 0.3
11	有形固定資産減価償却費	42,502	43,044	543	1.3
12	そ の 他	5,297	6,664	1,367	25.8
合 計		160,990	164,364	3,373	2.1

費用合計は、337万3千円（2.1%）増加し、1億6,436万4千円となった。

費用を性質別に見ると、前年度に比べ、ペットボトル水売却原価が187万円（29.7%）、動力費が72万8千円（10.0%）、修繕費が64万6千円（12.0%）増加し、人件費で177万4千円（7.4%）減少したことが主な要因である。

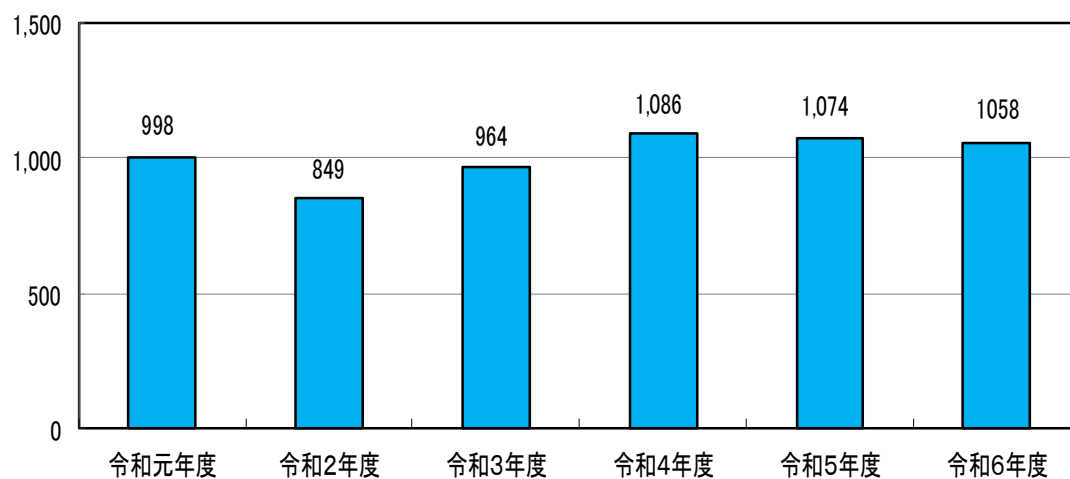
(3) 供給単価及び給水原価

供給単価及び給水原価の推移は次表のとおりである。



(4) 有収水量の推移

有 収 水 量 の 推 移
(単位:千m³)



年間有収水量については、前年度に比べて1万5,652 m³ (1.5%) 減少し、105万8,258 m³となり、前年度を下回っている。

4 財政状態について

当年度の貸借対照表を前年度と比較すると次表のとおりである。

貸借対照表前年度比較

(単位：千円、%)

区 分	令和5年度	令和6年度	増減額	増減率
固 定 資 産	1,003,479	1,011,357	7,878	0.8
有形固定資産	1,003,479	1,001,357	△ 2,122	△ 0.2
土 地	145,535	145,535	0	-
建 物	49,163	56,589	7,426	15.1
構 築 物	770,823	760,671	△ 10,152	△ 1.3
機 械 及 び 運 搬 具	26,259	24,359	△ 1,900	△ 7.2
工 具 器 具 及 び 備 品	4,568	6,993	2,425	53.1
建 設 仮 勘 定	7,131	7,210	79	1.1
投 資	0	10,000	10,000	皆増
投 資 有 価 証 券	0	10,000	10,000	皆増
流 動 資 産	284,866	285,221	355	0.1
現 金 預 金	262,152	261,204	△ 948	△ 0.4
未 収 金	21,883	21,787	△ 96	△ 0.4
貯 蔵 品	831	2,230	1,399	168.3
資 産 合 計	1,288,345	1,296,578	8,233	0.6

(1) 資 産

当年度の資産合計は、前年度に比べ823万3千円（0.6%）増加し、12億9,657万8千円となった。

固定資産は、前年度に比べ787万8千円（0.8%）増加し、10億1,135万7千円となった。流動資産は、前年度に比べ35万5千円（0.1%）増加し、2億8,522万1千円となった。

(単位：千円、%)

区 分	令和5年度	令和6年度	増減額	増減率
固定負債	9,584	10,141	557	5.8
引 当 金	9,584	10,141	557	5.8
退職給付引当金	5,570	6,127	557	10.0
修繕引当金	4,014	4,014	0	-
流動負債	22,274	14,864	△ 7,410	△ 33.3
引 当 金	1,722	1,575	△ 147	△ 8.5
賞与引当金	1,477	1,354	△ 123	△ 8.3
法定福利費引当金	246	221	△ 25	△ 10.2
未 払 金	15,938	8,535	△ 7,403	△ 46.4
前 受 金	158	181	23	14.5
預 り 金	4,456	4,573	117	2.6
繰延収益	72,236	67,717	△ 4,519	△ 6.3
長期前受金	341,621	343,552	1,931	0.6
収益化累計額	△ 269,385	△ 275,835	△ 6,450	△ 2.4
負 債 合 計	104,094	92,722	△ 11,372	△ 10.9
資本金	707,616	707,616	0	-
自己資本金	707,616	707,616	0	-
補てん財源処分組入額	0	0	0	-
剰余金	476,634	496,240	19,606	4.1
資本剰余金	42,414	42,539	125	0.3
工 事 負 担 金	39,545	39,670	125	0.3
他 会 計 負 担 金	2,870	2,870	0	-
利益剰余金	434,220	453,701	19,481	4.5
利 益 積 立 金	24,121	24,121	0	-
建 設 改 良 積 立 金	87,843	85,601	△ 2,242	△ 2.6
当年度未処分利益剰余金	90,368	109,849	19,481	21.6
処 分 済 利 益 剰 余 金	231,887	234,129	2,242	1.0
資 本 合 計	1,184,250	1,203,856	19,606	1.7
負債・資本合計	1,288,345	1,296,578	8,233	0.6

(2) 負債・資本

当年度の負債合計は前年度に比べ 1,137万2千円 (10.9%) 減少し、9,272万2千円となった。固定負債は前年度と比べ 55万7千円 (5.8%) 増加し、1,014万1千円となった。流動負債は前年度に比べ 741万円 (33.3%) 減少し、1,486万4千円となった。これは主に未払金が 740万3千円 (46.4%) 減少したことなどによるものである。

資本金は 7 億761万 6 千円と前年同額、剰余金は 1,960万 6 千円（4.1％）増加し、4 億9,624万円となった。

その結果、当年度の資本合計は前年度に比べ1,960万 6 千円（1.7％）増加し、12億 385万 6 千円となった。

水道料金に係る収納状況の内訳は次表のとおりである。

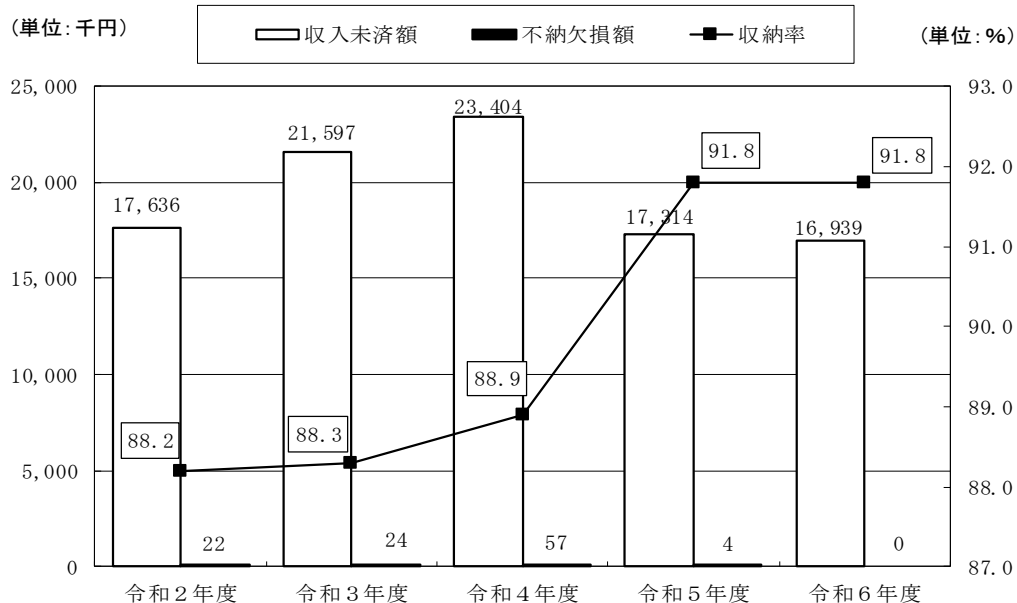
なお、水道料金の収入未済額は1,693 万 9 千円で収納率は 91.8％となっている。

水道料金収納状況表

（単位：千円、％）

区 分		調定額	収入済額	不納 欠損額	収入未済額	収納率
令和 6 年度	現年度	185,326	168,935	0	16,392	91.2
	過年度	21,020	20,474	0	547	97.4
	計	206,347	189,408	0	16,939	91.8
令和 5 年度	現年度	187,906	170,979	0	16,927	91.0
	過年度	23,400	23,009	4	387	98.3
	計	211,306	193,987	4	17,315	91.8
比 較	現年度	△ 2,580	△ 2,044	0	△ 536	－
	過年度	△ 2,380	△ 2,535	△ 4	160	－
	計	△ 4,959	△ 4,579	△ 4	△ 376	－

収入未済額・不納欠損と収納率の推移



5 審査のまとめ

1 決算の総括

芦原温泉上水道財産区水道事業は、昭和43年に給水を開始して以来、市民が健康で快適な生活を営む上で欠かせない社会基盤として事業を継続してきた。

本年度は、北陸新幹線芦原温泉駅の開業により営業の使用水量が増えることを期待されていたが、新型コロナウイルス感染症発生以降、旅館等の大口使用者の営業形態が変化してきたことから使用水量は減少し、年間給水量は対前年比1.5%、15,652m³減の1,058,258m³となった。

損益計算書における収入は、営業収益1億7,771万8千円、営業外収益656万2千円を計上し、合計1億8,428万円となり、対前年比0.2%、42万円の減となった。一方、支出は営業費用1億6,436万4千円、特別損失43万5千円を計上し、合計1億6,479万9千円となり、対前年比2.3%、377万5千円の増となった。この結果、令和6年度純利益は1,948万1千円を計上し、令和3年度の料金改定後4年続けての黒字となった。

また、資本的収支においては、総事業費4,363万1千円で、第一期目となる庁舎改修工事を行った他、第2配水池の耐震診断及びこれに伴う関係布設替工事等を行った。

2 審査意見

- (1) 経営成績をみると、平成30年度から令和2年度まで3年連続の赤字決算であったが、令和3年4月1日からの料金改定やあわら温泉利用客数が回復したことで給水収益が増加に転じ、令和3年度以降黒字決算が続いている。

令和6年度も黒字決算にはなったが、北陸新幹線芦原温泉駅開業効果は給水量の大幅な増加にはつながらなかったと思われ、今後は厳しい経営環境が予想される。

- (2) 水道料金の収納状況は、高額滞納者の滞納額が多かったことから令和元年度から90%を下回る状況が続いていたが、令和3年度より収納率は改善傾向にあり、令和6年度の収納率は91.8%であった。利用者間の公平性確保の面からも、引き続き滞納の発生防止策を講じるとともに徴収強化に努められたい。

- (3) 水道事業を取り巻く環境は、人口減少や節水型給水器具の普及により変化している。さらに、自然災害等の発生を想定した対応も求められているところであり、予測の出来ない状況である。また、設備投資に要する経費の増額など、経営環境は厳しさを増す一方である。以上のことから、引き続き各関係機関と協議を進めることをはじめ、今後の需要予測に基づいた運営に努められたい。